

製品名: NF2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14632**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	NF2
別名	NF2; SCH; Merlin; Moesin-ezrin-radixin-like protein; Neurofibromin-2; Schwannomerlin; Schwannomin
遺伝子 ID	4771.0
SwissProt ID	P35240
免疫原	抗血清はヒトマーリン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 485-534

背景

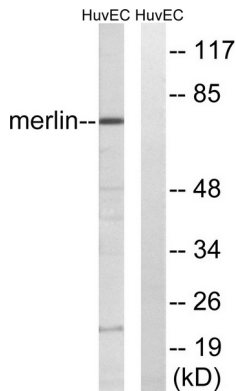
この遺伝子は、細胞骨格成分と細胞膜タンパク質を結び付けると考えられている ERM (エズリン、ラディキシン、モエシン) ファミ

リータンパク質の一部のメンバーに類似したタンパク質をコードしています。この遺伝子産物は、細胞表面タンパク質、細胞骨格ダイナミクスに関するタンパク質、イオン輸送の調節に関するタンパク質と相互作用することが示されています。この遺伝子は、胚発生中に高レベルで発現し、成人では、シュワン細胞、髄膜細胞、水晶体、神経で顕著に発現しています。この遺伝子の変異は、神経系および皮膚の腫瘍と眼の異常を特徴とする神経線維腫症 II 型に関連しています。選択的スプライシング転写によって、2つの主要なアイソフォームと多数のマイナーアイソフォームが生成されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]先天性皮膚神経鞘腫症とも呼ばれる。シュワン細胞腫は末梢神経鞘の良性腫瘍で、通常はそれ以外は正常な個人に単独で発生する。同一個人にシュワン細胞腫が多発している場合は、基礎に腫瘍素因症候群があることを示唆する。最も一般的なそのような症候群は NF2 である。NF2 の特徴は両側の前庭神経シュワン細胞腫の発生であるが、NF2 に罹患した個人の 3 分の 2 以上が他の場所にシュワン細胞腫を発症し、NF2 に罹患した小児では皮膚シュワン細胞腫が前庭腫瘍に先行する可能性がある。前庭シュワン細胞腫の証拠を示さない複数のシュワン細胞腫を有する個人に関する報告がいくつかある。臨床報告は、シュワン細胞腫症が他の形態の神経線維腫症とは異なる臨床実体であることを示唆している。疾患: NF2 の欠陥が神経線維腫症 2 (NF2) の原因である[MIM: 101000]。中枢神経線維腫症 (NF2) としても知られる NF2 は、両側性前庭神経鞘腫 (以前は聴神経腫瘍と呼ばれていました)、その他の頭蓋神経および末梢神経の神経鞘腫、髄膜腫、および上衣腫を特徴とする遺伝性疾患です。常染色体優性遺伝形式で、完全浸透性です。罹患した患者は、一般的に成人期早期に難聴や平衡障害などの第八神経機能障害の症状を発症します。NF2 の腫瘍は組織学的には良性ですが、その解剖学的発生部位により管理が困難であり、患者の罹患率と死亡率は高くなります。機能: おそらく膜安定化タンパク質として作用します。AGAP2 に結合して PI3 キナーゼの刺激活性を損なうことで、PI3 キナーゼを阻害する可能性があります。類似性: 1 つの FERM ドメインを含みます。細胞内局在: 線維芽細胞株では、アイソフォーム 1 が細胞全体に均一に分布しており、特に波状膜と糸状仮足で強く染色されます。細胞内局在: 線維芽細胞株では、アイソフォーム 10 が細胞全体に均一に分布しており、特に波状膜と糸状仮足で強く染色されます。細胞内局在: 核周囲に集中している細胞質顆粒で観察されます。アイソフォーム 7 は、波状膜と糸状仮足には存在しません。細胞内局在: 核周囲に集中している細胞質顆粒で観察されます。アイソフォーム 9 は、波状膜および糸状仮足には存在しない。サブユニット: SLC9A3R1、HGS、AGAP2 と相互作用する。LAYN と相互作用する (相同性による)。SGSM3 と相互作用する。組織特異性: 広く発現している。アイソフォーム 1 と 3 が優勢で、アイソフォーム 4、5、6 は中程度に発現し、アイソフォーム 8 は低頻度で認められる。アイソフォーム 7、9、10 は成体組織では発現しないが、成体網膜ではアイソフォーム 10 が発現している。アイソフォーム 9 は、胎児の脳、心臓、肺、骨格筋、脾臓でわずかに発現する。胎児胸腺は、アイソフォーム 1、7、9、10 を同程度に発現する。

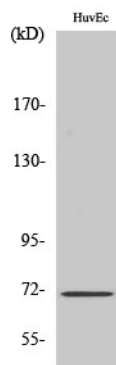
研究分野

神経科学

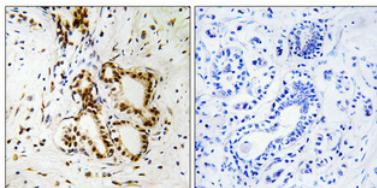
画像データ



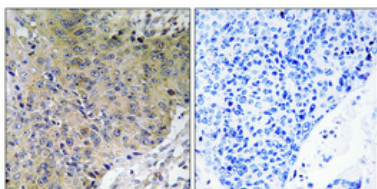
IFN- α 1000U/ml で18時間処理した HUVEC 細胞ライセートの Merlin 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



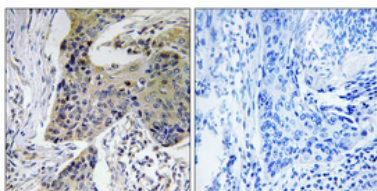
1: 500 に希釈した NF2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。